

News Letter

ニュースレター

1 全国シンポジウムを開催



2024年12月1日に「日本の医療安全教育を推進するために — 医療安全教育のグローバルスタンダードと日本の実践 — 」と題したシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムでは、WHO本部で長年にわたり医療安全を牽引された元WHO Patient Safety Flagship部長のNeelam Dhingra博士より、医療安全教育とトレーニングのアプローチやその課題について講演していただきました。また、患者参画の世界的な拡大に向けて活動されているPatients for Patient Safety Observatory代表のNeda Milevska Kostova博士には、患者コミュニティが「医療安全」に関してできることをテーマに講演していただきました。さらに、厚生労働省医政局地域医療計画課医療安全推進・医務指導室地域医療対策推進参与の栗原健氏から、日本の医療安全施策の動向を中心に、求められる施策やその取り組みについての講演をしていただきました。最後に、齋藤貴之PSECセンター長より「医療安全教育と群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センターのこれから」と題し、PSECの今後の試みについて紹介しました。

このシンポジウムには、全国の医療安全教育に関心のある教職員や学生約200名が参加され、医療安全の資質を備えた医療従事者育成のためには標準化された教育とトレーニングが不可欠であること、そのためのカリキュラムの開発や専門職の連携が求められていることなど、医療安全および医療安全教育に関する知見が得られたと好評でした。



PSEC SYMPOSIUM

群馬大学PSEC 医療安全教育全国シンポジウム

日本の医療安全教育を推進するために
医療安全教育のグローバルスタンダードと日本の実践

医療安全教育のグローバルスタンダードと日本の実践

会場の挨拶 群馬大学学長 石崎孝樹
挨拶 文部科学省高等教育局次長教育・人試課 課長補佐 山田研平氏

【講演者】
●元WHO Patient Safety Flagship 部長 Dr. Neelam Dhingra
●Patients for Patient Safety Observatory 代表 Dr. Neda Milevska Kostova
●厚生労働省医政局地域医療計画課医療安全推進・医務指導室地域医療対策推進参与 栗原 健氏
●群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター (PSEC) センター長 群馬大学大学院健康科学研究科 教授 齋藤 貴之
●PSECの挨拶 群馬大学副学長 教育・評価担当理事 林裕彦

【PSECについて】
群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター(PSEC)は、医療職内外関係機関との協力を基に教育関係団体共同拠点として、チームワーク、リブレンディングシステム思考、質改善といった医療安全の推進を取り入れた国際標準の医療安全教育手法に基づいて、多職種関係者の人材育成に貢献することを目的としています。

医療安全教育に関心のある方はぜひとも参加できます。

2024/12/1 Sun 13:00~16:00
群馬大学国際キーンズミニウムホールおよびオンライン(ZOOM)
群馬県前橋市昭和13-22-22

事前申し込みは Google Formから
<https://forms.gle/jw5tEPKZVW4H122>

主催：群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター
共催：群馬大学医務部の質・安全学、医学情報科学、多職種連携推進研究センター

群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター
〒371-8522 群馬県前橋市昭和13-22-22
TEL: 0271-229-2222
FAX: 0271-229-2222
E-MAIL: info@psec.gunma-u.ac.jp
www.psec.gunma-u.ac.jp

2 IPEトレーニングコースで医療安全教育FDを実施

2024年8月21日-23日に開催された第11回群馬大学IPEトレーニングコース（群馬大学昭和キャンパス、WHO協力センターと共催）において、当センターの田中和美先生が「Patient Safety Focused IPE Training Program at Gunma University & Discussion on Its Adaptability」のテーマでFDを行い、各機関が実施している多職種連携教育（IPE）に医療安全教育をどのように組み込むか、本学での導入事例に基づき講演を行いました。

トレーニングコースでは、群馬大学のIPEプログラムや、他の機関がIPEプログラムを導入・改善する際に使用できる手法も紹介され、ベトナム、韓国、インドネシア、タイ等海外からの参加者ととも医療者教育に関する情報提供や意見交換も実施されました。ワークショップでは、参加者がケースシナリオに基づいた専門職間研修のシミュレーションを体験しました。この他、アジアにおけるIPEの現状やWHOの課題、多職種連携教育・協働に対する取組についても取り上げられ、参加者の満足度の高いトレーニングコースとなりました。

3 日本医学教育学会大会で医療安全教育ワークショップを開催

2024年8月10日（土）に、第56回日本医学教育学会大会（2024年8月9日-10日、帝京大学板橋キャンパス）において、当センターの田中和美先生が「患者安全の視点を多職種連携教育に取り入れる ～ patient journey mapping を体験してみよう～」をテーマとしたワークショップの座長を務めました。本ワークショップでは、本学がこれまで培ってきた patient journey[※]の視点を取り入れた医療安全教育手法について紹介するとともに、実際に参加者にも体験いただきました。

※patient journeyとは、患者が自身の健康問題に対処する際のステップを示すもので、以下のフェーズに分けられます。①認識と気づき: 症状を自覚する。②情報収集と判断: 情報を集めて医療機関受診を決定。③医療機関の受診: 診察と相談を行う。④診断と治療計画: 診断を受けて治療方針を決定。⑤治療の実施とフォローアップ: 治療開始と経過観察。⑥回復と管理: 回復後の健康管理と再発防止。

patient journeyは、患者個々の状況によって大きく異なりますが、医療提供者はこのプロセスを理解し、患者が適切なケアを受けられるようにサポートすることが重要です。



発行
多職種人材育成のための医療安全教育センター(PSEC)
<https://psec.med.gunma-u.ac.jp/>



PSECでは、ホームページにおいて、医療安全教育手法に関する動画や、資料等を提供しています。ぜひご覧ください。